



三春中学校だより

第 47 号

発行日 令和 2 年 1 月 10 日

発行所 三春町立三春中学校

電話 0247-62-2181 F A X 0247-62-6978

E-mail miharu-j@fcs.ed.jp

【教育目標】『三春に暮らす生徒一人ひとりに、将来に対して喜びと生きがいのある人生を主体的に創造する力を育み、地域に信頼され、ひいては、国際社会に貢献できる人材を育てる』

【新年もどうぞよろしくお祈りします！ ～令和元年度もまとめの時期となりました。～】

1月8日(水) 1校時目、CGにおいて冬休み明け集会を行い、校歌・讃歌の後、各学年代表による冬休みの振り返りと令和2年の新年にあたっての思いの発表がありました。

1年生代表からは冬休みに規則正しい生活や家の手伝いができたこと、今後は勉強と部活動の両立を図りつつ先輩になる準備をしていきたいという発表がありました。

2年生代表からは冬休みは部活動がとても充実していたこと、3年生になるために勉強をたくさんし、自分で気がつき、進んで行動できる3年生をめざしたいということか発表され、3年生代表からは健康に十分注意して、受験にむけ必死に勉強し、輝かしい未来のために勇気をもって有終の美を飾り、晴れやかに卒業式に臨みたいという発表がありました。それを全校生は体育座りで発表の生徒にしっかり目をむけて真剣な顔で聞いていました。

新年の始まり、年度のまとめの時期を迎えるにふさわしいすばらしい決意の言葉となりました。

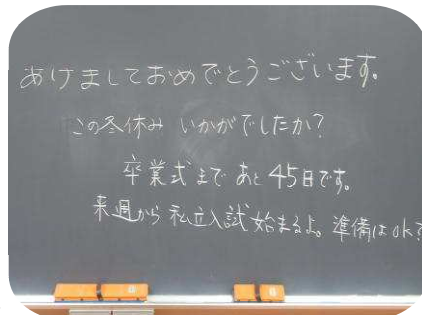


【“共に”の気持ちをそれぞれの形で！ ～冬休み明け前日の教室を拝見しました。～】

冬休み明けを翌日に控えた1月7日(月)、翌日に子どもたちがスムーズに各学年のスペースで生活がはじまれるようと夕方校舎内を点検がてら回ってあるきました。

懐中電灯を片手に校舎の施錠や整理整頓状況を見回り、ふと黒板を照らすと何か文字が書いてありました。蛍光灯をつけてみるとそこには、「あけましておめでとうございます。この冬休みはいかがでしたか？卒業式まであと45日です。来週から私立入試始まるよ。準備はOK？」と書いてありました。担任の先生からの“一緒にがんばろうね”のメッセージなのでしょうか。別のフロアにあがると、机と椅子が縦横寸分の狂いもなく整えられていました。こちらは“整った学習環境の中でまたがんばろうね”というメッセージなのでしょうか。

学年の子どもたちが元気よく、気持ちよく登校してくれることを願う学年団の気持ちの現れです。令和2年も、『命の輝き』～共に、ひたむきに、そして、こころ豊かに～でまいります。



【雪かきありがとう！ ～雪が子どもたちの心を清らかに、人の心を温かくしてくれました。～】

1月8日(火)の朝は雪が積もっていました。学校が再開されるのに嫌だなと思っていました。子どもたちが転んでけががでてもしないか、スクールバスは大丈夫か、先生方は凍結にスリップしはしないか、健康を害している人はなど、さまざまな悪いことを想定して少し心が暗くなっていました。

少し早く出勤し、登校してくる子どもたちが歩きやすいようにと雪かきで1本の筋をつけました。もう7時前に登校してくる生徒さんもいて、その1本の筋の上を生徒さんがたどって歩いているのを

見て、(なんか人の役に立ったな。)うれしくもなりました。さらに、雪かきをもって校門前までいくと、雪は片側に寄せられバスの運転手さんでしょうが、子どもたちが通る分の雪かきをしてくださっていました。その雪の塊も含め、登校してくるおおぜいの子どもたちのために校門前を一通り雪かきして子どもたちを待ち受けていると、学校の方で何やらざわざわした声とザザー、ザザーという音がしてきました。登校してきた子どもたちがみんなで雪かきをはじめてくれたのです。

寒い中雪かきをありがとうございました。雪の積もる朝の寒さと冷たい風には体を硬くさせられましたが、子どもたちの温かい心はそれを見るものの心を温かくさせるものがありました。令和2年もこの子どもたちと一緒に何とかやっつけていけそう、いや、この子どもたちのために誠心誠意がんばらなくてはならないと強く思いました。



【清掃にも、整理整頓にも真剣に取り組める学校をこれからもめざします！～】

よりよく学ぶためによりよい学習環境は重要な要素です。“環境の乱れは心の乱れ”という認識で、みんなが“安心して学べる学びの環境づくり”にこれからも努めてまいりたいと存じます。

1月8日(水)、校舎施錠のための巡視の際、2階理科室前、1階校務センター前の雑巾がけはいつものようにきちんと整えて掛けられていました。下の写真の左と中央の2写真です。ただ、課題がないわけではありません。下の右側の写真は別な場所の雑巾がけです。乱雑に掛けられた雑巾はその雑巾を使用した清掃の乱雑さ、心のこもらなさを想起させるものでもあります。

冬休み明け集会では校長より、年度のまとめとなるこれから3ヶ月を、『忠恕』：心を大切に思いやりの心をもって、『探究』：人がいてもいなくても本当に大切なものを求めて、『必達』：何かを成し遂げるために計画性・見通しをもって、というお話をさせていただきました。

その日の清掃後の雑巾がけの様子が下の写真です。人がいてもいなくても、自らの活動に、『共に、ひたむきに、そして、こころ豊かに』取り組み、それが自分自身の『命の輝き』となってくるという思いで日々の指導にあたってまいります。



【『まっすぐ伸びる』には寄り添うものが必要です！

～何事にも先達はあらまほしきことなり。(徒然草)～】

暗い中を懐中電灯一つで巡視していると、「おやっ?」。ある教室の植木鉢からまっすぐに伸びた植物を発見しました。

『子宝草』。校長室にも生徒さんにこの草から分けてもらったものがありますが、緑とピンク?の葉っぱが混ざっています。よく見ると緑にブルーの茎も見えます。蛍光灯をつけるとそれは添え木のようなブルーのプラスチックとそれを縛っているピンクのスズランテープでした。

植物も私たち人間もまっすぐに伸び伸びと育つには、それに寄り添う人やものの存在は欠かせないんだなあ、先達の存在や環境の大切さなどというものに思いを巡らしたと感慨にふけた出来事でした。

